

事例番号:310145

## 原因分析報告書要約版

産科医療補償制度  
原因分析委員会第七部会

### 1. 事例の概要

#### 1) 妊産婦等に関する情報

初産婦

#### 2) 今回の妊娠経過

妊娠 33 週 B 群溶血性連鎖球菌 (GBS) 陰性

#### 3) 分娩のための入院時の状況

妊娠 37 週 6 日

6:50 前期破水の診断で入院

#### 4) 分娩経過

妊娠 37 週 6 日

7:30- 陣痛開始

18:39 経膈分娩

#### 5) 新生児期の経過

(1) 在胎週数:37 週 6 日

(2) 出生時体重:2866g

(3) 臍帯血ガス分析:pH 7.48、PCO<sub>2</sub> 32mmHg、PO<sub>2</sub> 23mmHg、HCO<sub>3</sub><sup>-</sup> 23.0mmol/L、  
BE 0.4mmol/L

(4) アプガースコア:生後 1 分 8 点、生後 5 分 9 点

(5) 新生児蘇生:実施なし

(6) 診断等:

生後 6 日 退院

生後 13 日 前日より活気不良あり、嘔吐、努力性呼吸、全身蒼白などが出現  
髄膜炎、敗血症性ショックの診断、細菌培養検査(髄液、動脈血)で

## GBS 検出

### (7) 頭部画像所見:

生後 13 日 頭部 CT で脳浮腫を認める

生後 24 日 頭部 CT で脳室拡大、右前頭葉中心に高吸収域を認め、深部白質は低吸収域が広がる所見

生後 38 日 頭部 MRI で脳軟化を広汎に認め、脳幹も含め大脳基底核・視床に信号異常を認める

### 6) 診療体制等に関する情報

(1) 施設区分: 病院

(2) 関わった医療スタッフの数

医師: 産科医 1 名

看護スタッフ: 助産師 1 名、看護師 1 名

## 2. 脳性麻痺発症の原因

(1) 脳性麻痺発症の原因は、GBS 感染症により、髄膜炎および敗血症性ショックとなったことであると考えられる。

(2) GBS の感染時期および感染経路は不明である。

## 3. 臨床経過に関する医学的評価

### 1) 妊娠経過

妊娠中の管理は一般的である。

### 2) 分娩経過

分娩経過中の管理は一般的である。

### 3) 新生児経過

(1) 出生後から退院までの新生児管理は一般的である。

(2) 生後 13 日に症状が出現し受診した際の対応、および A 医療機関へ児を搬送したことは、いずれも一般的である。

## 4. 今後の産科医療向上のために検討すべき事項

1) 当該分娩機関における診療行為について検討すべき事項

なし。

2) 当該分娩機関における設備や診療体制について検討すべき事項

なし。

3) わが国における産科医療について検討すべき事項

(1) 学会・職能団体に対して

遅発型 GBS 感染症に対する疫学的調査、予防・診断・治療に対する知見の集積が望まれる。

(2) 国・地方自治体に対して

なし。